



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

今月の話題

- ◆ 米検査状況
- ◆ 滋賀県の作況指数 9/15現在
- ◆ 今年の病害虫発生状況と今後の対策について
- ◆ 水稻の土づくり
- ◆ 農地中間管理機構 受付開始

メモ

- ✓ 米出荷後の生産工程管理日誌（10月）の提出準備はお済みですか？
- ✓ 土づくり資材予約申込 10月16日まで！ **お早めに**
- ✓ 10月の土づくり資材配送について
10月配送希望者には10月随時配送を行います。
委託散布は11月に散布作業予定です。
- ✓ 10月の麦生産資材の配送について
粒状苦土、種子・種子消毒、基肥、除草剤については10月10日頃から配送予定です。
12月上旬…化成肥料201（追肥）
3月末…ワークアップ等配送予定です。



大型の粃すり機2台で
粃すりをしています。

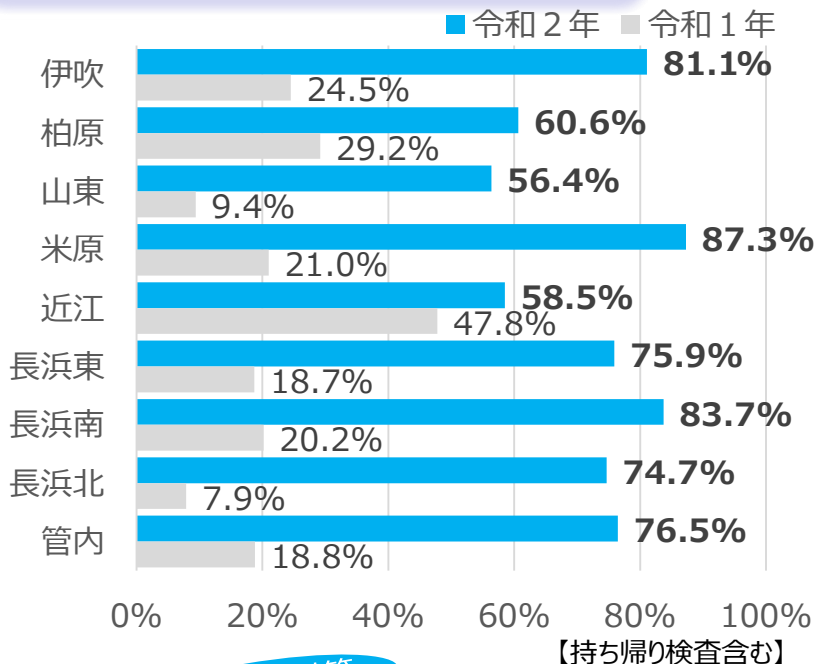
9月は長浜カントリーで粃の荷受け作業を行いました。9月に入り天候の不順な時期もありましたが、刈り取り作業は順調に進み、品質の良い米を収穫していただきました。9月下旬頃から粃すりを開始しています。

米検査状況

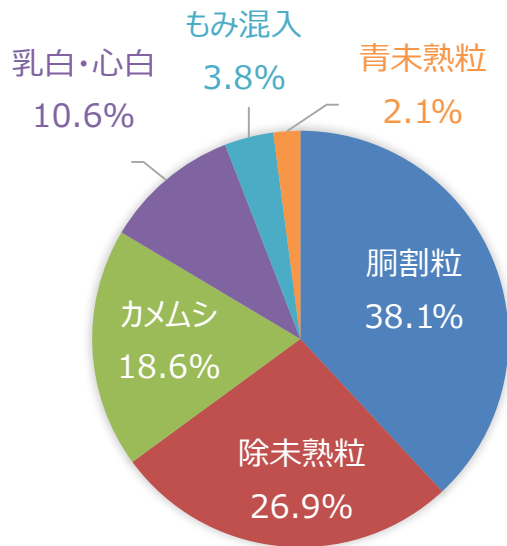
速報!

今年は7月の日照不足と長雨のため、品質収量への影響が心配されましたが、8月に入り天候が回復し、品質に大きな影響が出ませんでした。例年に比べ斑点米カメムシと出穂期以降の高温のため胴割粒の発生が多くありました。

令和2年地域別地場コシヒカリ1等比率 9/30現在



2等以下の品質低下の要因



品質低下の対策

胴割粒	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 水管理による地温の低下・過度な土壌乾燥防止（早期落水しない） ✓ 刈遅れにならないように注意する ✓ コンバイン収穫は低スピードで衝撃を抑える ✓ 収穫後の急激あるいは過度の乾燥防止
除青未熟粒	<ul style="list-style-type: none"> ✓ やみ田の防止 ✓ 田植1か月で目標茎数の確保 ✓ 適期中干しや幼穂形成期の肥培管理による適正粒数の確保
斑点米カメムシ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出穂前後3週間、あぜ草を繁茂させない状態に保つこと ✓ 適期薬剤防除

滋賀県の作況指数 9/15現在

【作柄概況】

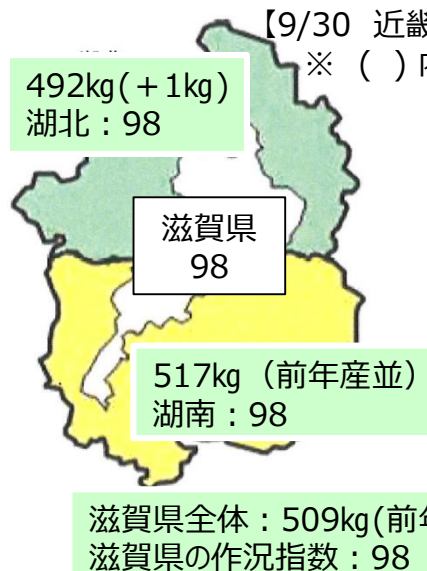
- ✓ 穂数は、田植期以降の日照不足の影響により分けつが抑制されたことから、少なくなった。
- ✓ 1穂当たりもみ数は、やや多かったが、全もみ数は、穂数が平年を下回ったためやや少ないとなった。
- ✓ 登熟は、8月以降高温・多照傾向で平年並みとなった。
- ✓ 湖北地域は作況指数98でやや不良となる見込み。

【近年の湖北地域の作況指数】

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
99	102	102	97	100	104	100	99	98

【9/30 近畿農政局公表】

※ () 内は前年差



● 全国の作況指数は101の「平年並み」

北海道と東北、北陸は天候に恵まれて全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調で「やや良」。

今年の病害虫発生状況と今後の対策について

10月になり概ね収穫作業を終えられたところで、今年発生が確認された病害虫被害のなかで発生が多かった・気になった被害をピックアップしました。今年、発生圃場があった方など来年に向けての取組みの参考にいただければと思います。

いもち病

7月の日照不足、大雨の影響により、湖北地域で「いもち病」の発生が確認されました。いもち病が広範囲に発生した圃場では十分な登熟が期待出来なくなり、大幅な減収と共に食味の低下を招きます。日当たりや風通しの悪い圃場や発生した圃場は特に注意しましょう。

【年内の対策】

- 秋耕を行い、圃場で越冬する病原菌を少なくする。



葉いもち



穂いもち

紋枯病

高温を好み、多発生すると減収や品質低下を引き起こす。とくに「コシヒカリ」は本病の被害を受けやすいので注意が必要です。今年発生が多かった圃場では来年に向けて対策を行きましょう。

【年内の対策】

- プラウ等による反転耕により病原菌を地中深く埋没する。



斑点米カメムシ

滋賀県病害虫防除所の防除情報でも畦畔における斑点米カメムシの発生量が**平成25年以来2番目に多い**という情報が発表されていました。今年の検査等級が下がる要因にもなりました。

【年内の対策】

- 畦畔除草を引き続き行い、カメムシの越冬場所をつくらない。



斑点米カメムシ

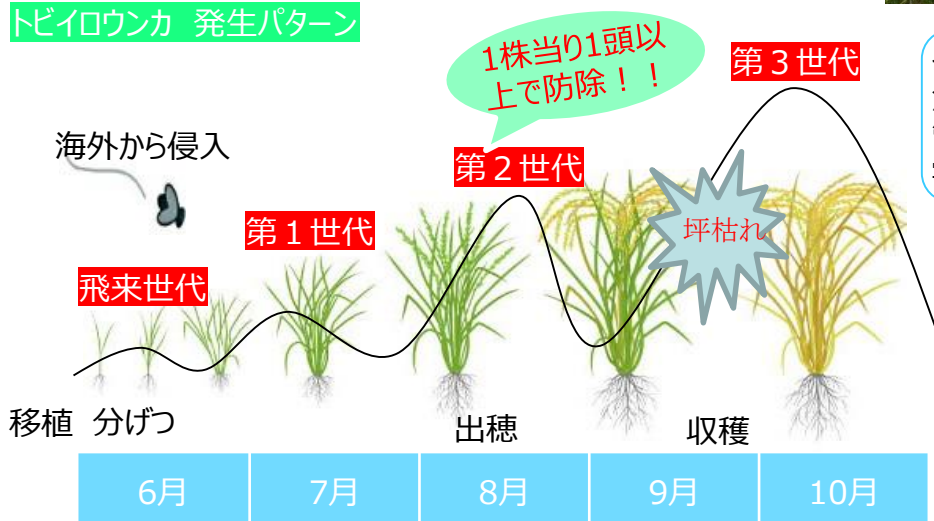
トビロウカ

梅雨時期の6月から7月に主に中国大陸から南西風に運ばれて西日本へ侵入します。世代を繰り返すことで場密度が高まります。被害は、中生・晩生の品種や遅植え、もち米で発生しやすく、減収します。

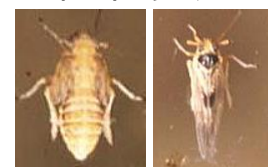
- 日本では越冬できない。



トビロウカ 発生パターン



トビロウカ



幼虫

成虫

水稻の土づくり

近年、異常高温や天候不順による日照不足などのため水稻の品質収量に大きく影響を与えています。そのため安定的に生産するための営農情報をお伝えしていますが、その基本となるのは土づくりです。

水田の土づくりのポイント

- ① 作土深の確保（深耕）
 - ✓ 丈夫な稲体を支える十分な根量を確保するため、作土深15cmが目標。
 - ✓ 出穂～登熟期の窒素や水分吸収が高まり、白未熟粒や胴割粒の発生が抑制される。
- ② 有機物の施用
 - ✓ 稲わらなど有機物を鋤き込むことで、土壌の主要な性質（化学性、物理性、微生物性）が良好に保たれる。
 - ✓ 適量が大切。
- ③ 適正な土壌養分量
 - ✓ pHの調節（水稻の好適p hは5.5～6.5）、カドミウム吸収抑制効果（pHを6.5に近づける）
 - ✓ リン酸が欠乏した土壌では根の伸びが悪くなる。水稻の場合、分げつ数が少なくなる。
 - ✓ ケイ酸は、光合成能力向上、いもち病抵抗性、倒伏防止、根腐れ防止により品質が向上する。
 - ✓ 苦土は米の粘りが大きくなっておいしくなる。
 - ✓ 鉄が少なくなると、土壌に硫化水素が発生しやすくなり、根腐れなど引き起こし、いわゆる秋落ちを生じる可能性がある。

田華の豊稲で主要な成分を施用できます！

アルカリ分

リン酸

ケイ酸

苦土

【田華の豊稲の施用量】

		5.5～6.0	6.0～6.5	6.5以上
田華の豊稲	砂状	80kg	60kg～80kg	60kg
	粒状	80kg	60kg～80kg	60kg



土壌pHについては営農経済渉外までご相談ください。

農地中間管理機構 受付開始

中間管理機構とは、所有者から農用地等を借り受け、担い手がまとまりのある形で利用できるよう配慮して貸し付ける事業です。

知事指定の機関なので安心です。
令和2年3月末で県内7,100haの農地で利用されています。

メリット	受付期間	有効期限
農地を貸したい方(出し手) <ul style="list-style-type: none"> ● 賃料が発生する場合には、機構から指定口座に確実に振り込まれます。 ● 契約期間終了後、農地は確実に戻ります。 ● 機構に貸付けた農地は課税が軽減される場合があります。 ● 賃借料は機構からの口座振入による支払。等々 	9月25日(金) ～11月10日(火)	令和3年 3月末日
農地を借りたい方(受け手) <ul style="list-style-type: none"> ● 農地をまとまりのある形で借り受ける事が可能。 ● 農地を長期（原則10年以上）に借入でき、効率的、安定的な農業経営ができます。 ● 複数の所有者からの借受でも契約が一本化され、賃料の支払事務が軽減できます。 	通年 (随時受付)	受付した2年後 の年度末 (令和5年3月末日)

◆ 高齢
◆ 農業後継者がいない
◆ 農地を相続したが...

◆ 規模を拡大したい
◆ 新規参入したい